

## 会社概要 (2016年3月31日現在)

社名 日本ルツボ株式会社(登記上社名:日本坩堝株式会社)  
Name:Nippon Crucible Co., Ltd.  
設立 明治39年(1906年)12月  
本店所在地 東京都渋谷区恵比寿1-21-3 恵比寿NRビル  
TEL(代表) 03-3443-5551  
資本金 7億452万円  
証券取引所 東京証券取引所 市場第二部  
会計監査人 有限責任監査法人トーマツ  
証券コード 5355  
従業員数 連結 200名 単体 157名

## 役員 (2016年6月28日現在)

|         |        |       |        |
|---------|--------|-------|--------|
| 取締役会長   | 岡田 民雄  | 取締役   | 岡田 光一  |
| 代表取締役社長 | 大久保 正志 | 取締役   | 岩谷 誠治  |
| 取締役副社長  | 坂本 信治  | 常勤監査役 | 安田 哲夫  |
| 専務取締役   | 佐野 俊昭  | 監査役   | 茂木 康三郎 |
| 取締役     | 大橋 秀明  | 監査役   | 草野 成郎  |

(注) 1. 取締役岩谷誠治氏は、社外取締役であります。  
2. 常勤監査役安田哲夫氏、監査役茂木康三郎氏および監査役草野成郎氏は、社外監査役であります。



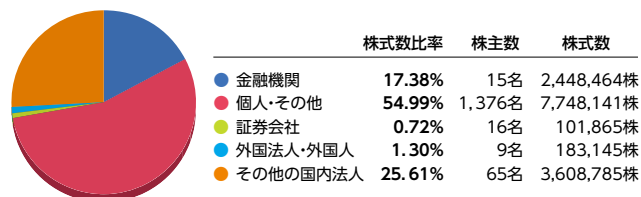
### ルツボについて

5,000年以上の歴史を持つルツボは、人類に様々な文明をもたらしてきました。現在でも、自動車・電気機器・機械・IT機器・公共土木・住宅関連・環境関連部品の製造には欠かせず、まさに一国の産業を支える器(うつわ)です。そのサイズは、酒杯くらいのものから、大きいものは直径1m、高さ1.5mのものまであり、銅合金で5.5トン、アルミニウムで1.7トンを溶解できます。ルツボは器としての機能は変わっておりませんが、その素材および製造技術は日進月歩であり、当社のルツボも最先端の技術により進化を続けています。アジアの経済発展が急速に進む今、様々な産業で大量の金属部品が必要とされ、そのために最高品質のルツボが求められています。当社のルツボは新たな時代のニーズに確実に応えています。

## 株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株  
発行済株式の総数 14,090,400株 (自己株式571,685株を含む。)  
株主数 1,481名

## 株主構成



## 株主メモ

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 事業年度                               | 毎年4月1日～翌年3月31日   |
| 剰余金の配当基準日                          | 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)   |
| 定時株主総会                             | 毎年6月下旬   |
| 単元株式数                              | 1,000株   |
| 株主名簿管理人                            | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号<br>みずほ信託銀行株式会社  |
| 郵便物送付先                             | 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4<br>みずほ信託銀行 証券代行部   |
| 電話お問い合わせ先                          | フリーダイヤル 0120-288-324<br>(土・日・祝日を除く9:00~17:00)  |
| 株式に関する<br>お手続きについて<br>(住所変更・買取請求等) | 1. 証券会社等の口座をご利用の場合<br>お取引の証券会社等にお問い合わせください。<br>2. 証券会社等の口座をご利用でない場合<br>(特別口座)<br>みずほ信託銀行(TEL:0120-288-324)<br>までお問い合わせください。          |
| 公告方法                               | 電子公告( <a href="http://www.rutsubo.com/">http://www.rutsubo.com/</a> )<br>(ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。) |



# Heart&Spirit Ecology Challenge

**NIKKAN**

# Report

## 第176期 報告書

2015年4月1日～2016年3月31日

日本ルツボ株式会社  
NIPPON CRUCIBLE CO., LTD.  
証券コード 5355



## 当社は、耐火物事業を核として、 競争力・収益力・成長力のある 企業体質の確立を 目指してまいります。



代表取締役社長

大久保正志

平素、株主の皆様におかれましては、当社グループへ的一方ならぬご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第176期の業績の概況等についてご報告させていただきます。

わが社は、創造性豊かな活力に満ちた役職員により、  
伝統を守りつつ、いかなる時代、いかなる環境にも適合する会社を目指します。

### 経営理念

#### Heart&Spirit

当社は、明治18年の創業以来、お客様ニーズを的確に把握し新製品の開発、新ジャンルの開拓を推し進めてまいりました。21世紀も、その姿勢は変わりません。

#### Ecology

当社は、どんなに優れた技術であっても地球環境にダメージをあたえてはならないと考えます。環境に対して求められるもの、必要なものを展望しながら製品・設備を提供してまいります。

#### Challenge

「現状維持は退化につながる」という発想のもと、常に新しい技術を開発し続け、新しい分野への進出によりお客様の満足を実現してまいります。

### 第176期(2016年3月期)の業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策や金融政策を背景に全体として緩やかな回復基調で推移し、設備投資も企業収益の改善が進むなかで緩やかに増加いたしました。一方、世界経済は、米国経済が好調に推移したものの、中国経済の減速が他の新興国にも大きな影響を与え、総じて景気の先行きは不透明な状況にあります。

当社グループの主要取引先である自動車関連産業は、北米市場ではガソリン価格低下等を背景に堅調に推移いたしました。国内においては、2015年4月の軽自動車増税の影響等により販売台数の減少が続いており、生産台数も前年度比マイナスと厳しい状況にあります。

鉄鋼産業も、世界的な市況悪化および自動車や産業機械の生産停滞等により、国内粗鋼生産量の前年度比マイナスが継続するなど、厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは営業と技術が一体となり、主力製品や新製品の拡販活動を積極的に推進してまいりましたが、当連結会計年度の売上高は79億6千8百万円と前年同期比2.4%減少いたしました。営業利益は製造コスト低減・経費削減により2億7千5百万円と前年同期比16.5%増加いたしました。しかし、経常利益は中国における持分法適用会社の投資利益の減少により、2億9千2百万円と前年同期比10.0%減少いたしました。親会社株主に帰属する当期純利益は新事業開始に伴う大阪工場建物の一部(旧貸倉庫)の減損損失4千万

円等により、1億4千7百万円と前年同期比11.5%減少いたしました。

### 今後の見通しについて

中国を始めとする新興国経済の不透明感などもあって、足元緩やかな回復基調にあるわが国経済も下振れリスクを抱えており、今後の当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続くものと思われま。

このような状況のなか、当社グループといたしましては、積極的な営業活動を展開するとともに、生産性向上によるコスト低減と経費削減を一段と進めることにより利益率改善に努めてまいります。

### 配当方針について

当社の配当方針は、株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと考え、業績の状況、配当性向、企業体質強化のための内部留保などを総合的に判断し、業績に応じた適正な利益配分を継続的に行うことを基本方針にしております。

当期の期末配当金につきましては、当期業績を踏まえ、1株につき4円とさせていただきます。

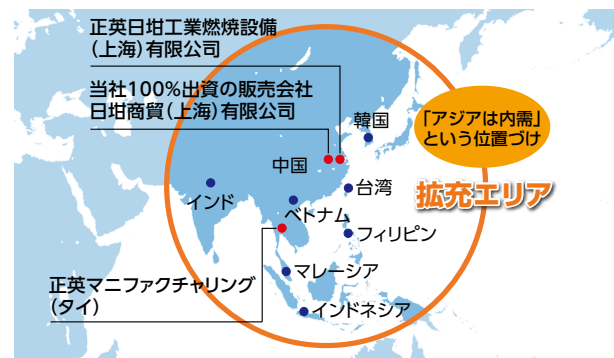
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 事業内容のご紹介

| 事業         | 事業内容   |
|------------|--|
| 耐火物事業      | 非鉄金属 溶解・鑄造用耐火物 …… 銅・銅合金・亜鉛<br>アルミニウム<br>鉄鋼用耐火物 …… 鉄鋼<br>鉄鋼用耐火物 …… 鉄鋼・特殊合金<br>焼却炉・溶融炉用耐火物 |
| エンジニアリング事業 | 非鉄金属 溶解・鑄造用工業炉 …… 銅・銅合金・亜鉛<br>アルミニウム<br>耐火物メンテナンス  |
| 不動産事業      | 本社賃貸ビル<br>日本ルツボ 豊田ソーラーパーク(太陽光発電事業)   |

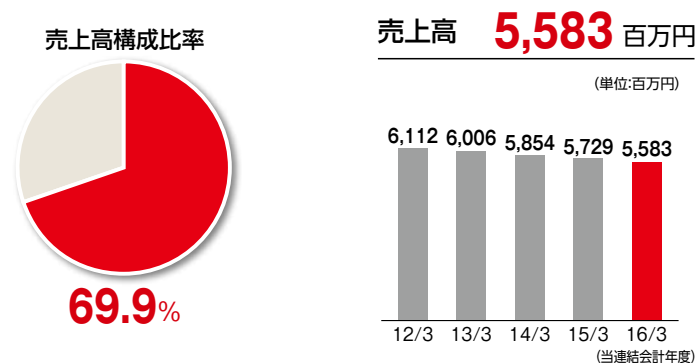
## グループの海外ネットワークと戦略

当社グループは、「新製品の開発」「新市場の開拓」「新事業の構築」に向け、グループ一丸となって、競争力・収益力・成長力のある企業体質の確立を目指しております。耐火物事業の戦略は、国内市場におけるシェアアップを着実に進めるとともに、海外市場に対しては、「日坩商貿(上海)有限公司」を核として、中国をはじめとするアジア市場ならびに北米市場等への積極的な展開を図ってまいります。



## セグメント別業績

### 耐火物事業



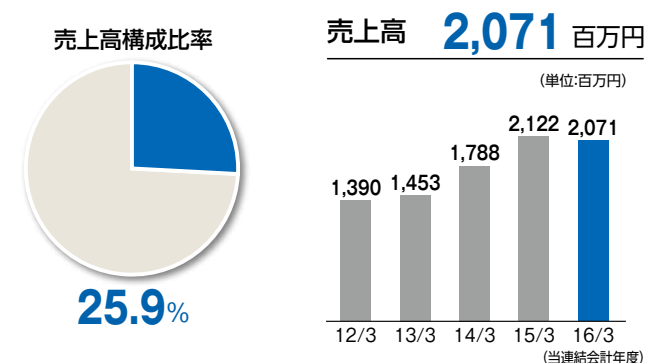
鑄造市場向けでは、主な取引先である自動車関連産業に対するシェアの維持・拡大に努めるとともに、誘導炉市場への取組強化および主力製品である黒鉛ルツボおよび不定形耐火物の更なる品質向上と新たな用途開発に努めてまいりました。特に、「高純度ジルコニアルツボ(ジルコニックス)」「高周波誘導炉用ルツボ(ホワイトフェニックス)」「省エネ型縦溝付ルツボ(ゼブラックス)」等の開発製品の拡販活動を積極的に進めてまいりました。

鉄鋼市場向けでは、更なる品質向上ときめ細かな対応により国内市場でのシェアの維持に努めるとともに、海外への技術供与によるロイヤリティー収入の増加を図ってまいりました。

しかし、国内自動車生産台数の前年度比減少が続いたことから関連する鑄物産業の生産量が減少したこともあり、耐火物事業の売上高は5億8千3百万円(売上高比率69.9%)と前年同期比2.5%減少いたしました。



### エンジニアリング事業



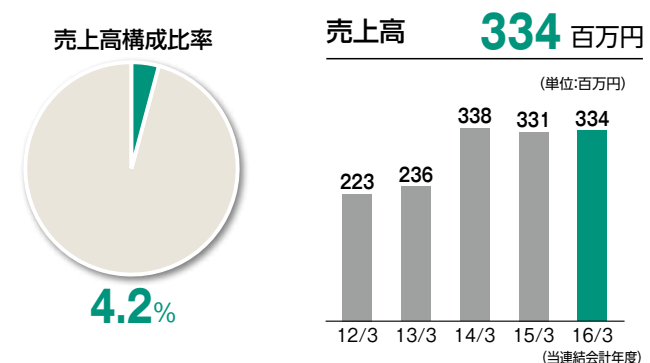
国内外のアルミ市場に対して、省エネ・高歩留まり炉である「ルツボ式連続溶解兼保持炉(MK炉:メルキーパー)」と「中小型溶解兼保持炉(NM炉)」の拡販および溶解炉の炉修工事の受注拡大に取り組んでまいりました。

また焼却炉関連では、民間および自治体の設備投資動向を的確に捉え、メンテナンス工事を含めた一層の受注拡大に取り組んでまいりました。

しかし、エンジニアリング事業全体では、国内市場においては新設炉および炉修工事の受注が増加いたしました。アジア市場での炉の受注のずれ込み等により、売上高は20億7千1百万円(売上高比率25.9%)と前年同期比2.4%減少いたしました。



### 不動産事業



2002年12月に完成した本社ビルの賃貸事業は、立地条件の良さから安定した入居率を維持しております。2013年3月より開始した太陽光発電事業は、当初予想を上回る発電量を確保しており、安定した収益事業となっております。

不動産事業の売上高は3億3千4百万円(売上高比率4.2%)と前年同期比1.0%増加いたしました。

今後は本社ビルの賃貸事業と太陽光発電事業に加え、大阪工場敷地の一部に賃貸倉庫を建設することにより、安定的な収益確保に努めてまいります。



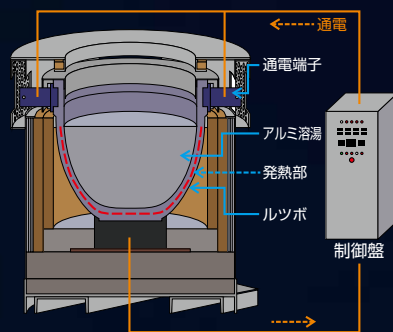
(注) 1. 売上高構成比率は外部顧客に対する売上高から算出しております。  
2. 上記の売上高の数値につきましては、セグメント間の内部売上高または振替高を含む売上高で表示しております。

# 高熱効率ルツボ式直接通電加熱保持炉 エレクリンキーパー

黒鉛ルツボに直接通電することで、  
温度制御や排ガス防止に大きく貢献します。



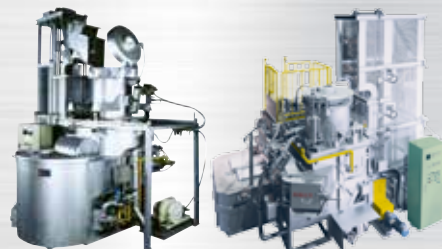
■ 基本構造図



当社が開発した「エレクリンキーパー」は、従来の保持炉におけるバーナー等による加熱とは異なり、アルミニウムの溶湯の保持容器として使用する黒鉛ルツボに直接電流を通し発熱させる保持炉です。これにより±1℃の高精度の温度制御が可能となり、製品品質向上や不良率低減の効果があります。また、排ガスの発生もなく作業環境や地球環境にも優しい製品です。

## ルツボ式連続溶解兼保持炉 中小型溶解兼保持炉 MK炉 | NM炉

2つのタイプをご用意し、  
お客様の多様なニーズに  
お応えしております。



MK炉(メルキーパー) NM炉

当社は、溶解機能を併せ持つ保持炉(溶解兼保持炉)として、ルツボを使用した「MK炉(メルキーパー)」と、レンガを使用した「NM炉」の2種類を取りそろえております。タッチパネルで溶融の状態等を管理する機能を追加したことで、お客様からこれまで以上の好評をいただいております。

■ タッチパネル



作動状態の可視化からエネルギー管理、温度管理、バーナー監視、昇温プログラム機能など様々な制御と管理が可能。

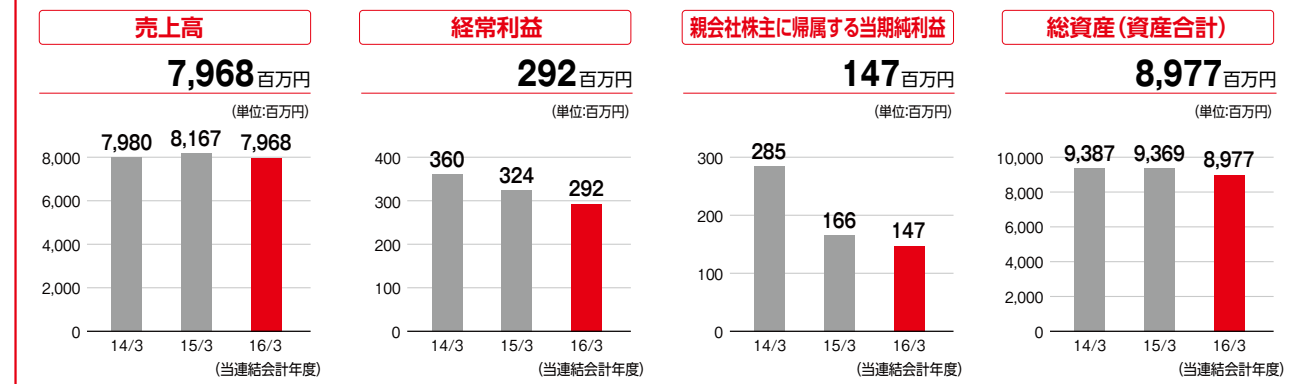
■ 制御盤



制御部に10.4型カラー液晶パネルを配置。

## 連結財務諸表

### 連結財務ハイライト



### 連結貸借対照表(要旨)

|             | 当連結会計年度<br>(2016.3.31) | 前連結会計年度<br>(2015.3.31) |
|-------------|------------------------|------------------------|
| <b>資産の部</b> |                        |                        |
| 流動資産        | 5,694,521              | 5,817,154              |
| 固定資産        | 3,282,699              | 3,552,300              |
| (有形固定資産)    | (1,885,452)            | (2,033,782)            |
| (無形固定資産)    | (96,931)               | (119,538)              |
| (投資その他の資産)  | (1,300,316)            | (1,398,980)            |
| <b>資産合計</b> | <b>8,977,220</b>       | 9,369,454              |

|                | 当連結会計年度<br>(2016.3.31) | 前連結会計年度<br>(2015.3.31) |
|----------------|------------------------|------------------------|
| <b>負債の部</b>    |                        |                        |
| 流動負債           | 3,363,137              | 3,786,173              |
| 固定負債           | 1,949,776              | 1,901,605              |
| <b>負債合計</b>    | <b>5,312,913</b>       | 5,687,778              |
| <b>純資産の部</b>   |                        |                        |
| 株主資本           | 3,559,793              | 3,462,168              |
| その他の包括利益累計額    | 104,514                | 208,384                |
| 非支配株主持分        | -                      | 11,124                 |
| <b>純資産合計</b>   | <b>3,664,307</b>       | 3,681,676              |
| <b>負債純資産合計</b> | <b>8,977,220</b>       | 9,369,454              |

### 連結損益計算書(要旨)

|                    | 当連結会計年度<br>(2015.4.1-2016.3.31) | 前連結会計年度<br>(2014.4.1-2015.3.31) |
|--------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 売上高                | 7,967,824                       | 8,167,072                       |
| 売上総利益              | 2,017,630                       | 2,009,238                       |
| 営業利益               | 275,347                         | 236,418                         |
| 経常利益               | 291,741                         | 324,051                         |
| 税金等調整前当期純利益        | 242,921                         | 291,214                         |
| 当期純利益              | 146,576                         | 162,272                         |
| 非支配株主に帰属する当期純損失(△) | △500                            | △3,877                          |
| 親会社株主に帰属する当期純利益    | 147,076                         | 166,149                         |

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

|                     | 当連結会計年度<br>(2015.4.1-2016.3.31) | 前連結会計年度<br>(2014.4.1-2015.3.31) |
|---------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー    | 436,151                         | 509,957                         |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー    | △106,044                        | △131,981                        |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー    | △421,971                        | △488,211                        |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額    | 366                             | 2,708                           |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △91,498                         | △107,527                        |
| 現金及び現金同等物の期首残高      | 1,314,563                       | 1,422,090                       |
| 現金及び現金同等物の期末残高      | 1,223,065                       | 1,314,563                       |